

●特別企画／同志社創立者・新島襄生誕一五〇年記念座談会

同志社と神戸

今井 鎮雄（同志社校友会兵庫支部長
神戸YMCA名誉顧問）

土井たか子（同志社校友会理事
衆議院議員）

竹本 成徳（同志社校友会兵庫副支部長
生活協同組合コープこうべ組合長理事）

中村 友一（同志社校友会本部常任理事
有限会社御影貿易商事社長）

石田 忠章（同志社校友会本部常任理事
エム・ヴィ・エム商事㈱社長）

今年同志社の創立者・新島襄の生誕一五〇年に当たる。

この新島襄生誕一五〇年を記念して、十二月六日（日）午後二時から神戸国際会議場にて、学校法人同志社主催の講演会が開かれる。

この機会に小誌では、各界で活躍の同志社OBの方々にお集りいただき、同志社の成り立ち、学生時代の思い出、現状などについてお話を伺った。

今井 今年は、同志社創立者・新島襄先生の生誕一五〇周年ということで、それぞれの縁りの地で記念集会や講演会が開かれています。神戸は特に新島先生と深い関係があります。

新島は西欧と日本の文化の圧倒的な違いを見て、それを学ぶことによって祖国を救おうと決意、脱藩してアメリカへ渡るのですが、ピュリタンの雰囲気の色濃く漂うマサチューセッツ州で、最後はキリスト教の伝導師の資格を得て

帰国することになります。

帰国の直前、バーモント州のラットランドで開かれたアメリカン・ボードでの説教の中で「日本の若者を明日の祖国を担う人に育てるために、ぜひキリスト教の精神にのっとった学校をつくりたいのです。そのためには五千元を必要とします。今ここで皆様からの賛同を得たい」と演説する彼の真摯な熱情は人々に感動を与え、その目的を達したといわれています。

日本に帰国した新島は、早速この資金をもとに同志社をつくる計画を始めますが、最初、彼はグリーン牧師やデヴィス師が住み、アメリカン・ボードとも関係の深いこの神戸の地に学校をつくらうと考えたようです。

では、なぜ神戸に彼の夢見る学校ができたのか。

これは、神戸の宣教師の中には先生の理想とする全人教育やリベラル・アーツを教える学校より宣教師養成のための神学校をつくる

ようにと勉める意見があり、むしろそこから脱して自由に学校をつくることこそ将来のためには大切なことだとする先生の思いとは違っていたからということのようです。

大阪を打診し、その後京都で山本覚馬との出会いもあって、同志社を京都に建てることになりました。当時神戸にいたデヴィス師は、日本の青年たちが高いレベルの知的欲求を持っていることを知っていたので、新島先生の話に共鳴し、神戸を離れ、京都で先生の片腕として学校建設のために尽力されました。今もデヴィス師の墓は、若王子の新島先生の墓の隣に並んで建っています。

中村 新島が同志社設立準備のため奔走していた一八七〇年のはじめ頃、神戸には何人かのキリスト教宣教師が、すでに伝導のための学校を始めていました。

新島は一八七五年一月、J・D・デヴィスを訪ねて来神し、神田



石田 忠章さん



中村 友一さん



竹本 成徳さん



土井たか子さん



今井 顕雄さん

孝平県令に面会しています。木戸孝九（内閣顧問）の紹介で大阪知事に会い、大阪の地に学校設立計画をはかりますが、反キリスト教の知事の承認を得られなかった年のことです。

同じ年の六月には、田中文部大輔より三日二晩かけて官途につくよう要請されながら、その申し入れを固辞し、田中に「君はヤソの奴隷じゃ」といわれますが、学校をつくり、第二、第三の新島を育てんとした新島の決意は固いものでした。

新島がはじめて神戸の地を選んだのは、十九歳の若き日、安中藩主・板倉勝明に仕えている時代、オランダ語、数学、航海術を学んでいた頃、松山藩主の洋式帆船で遠洋航海し、岡山の傍の玉島まで航海し、兵庫に碇を下して上陸した時です。文久二年（一八六二）十二月のことで、湊川神社に参り楠子の墓廟畔を徘徊し「幾とせも尽ぬ香を吹きよせて袖にみたす松の下風」とよんでいます。

また当時の日記によれば「生田森を一見せんとて歩みゆけば石灯籠立並び一の鳥居をくぐれば左に余程古びたる梅あり、石碑にえひらの梅と記し有り。生田大明神と記したる前殿に於いて一拝し彼比と徘徊すれば誰一人も参らず。北風の枯葉を払うを聞くのみにて物さびしくぞ覚り。」などとあります。

今井 新島先生は同志社を建てた後も、組合教会の重鎮として伝導や講演のため、たびたび神戸や岡

山を訪れています。

神戸に来た時は諏訪山の紅葉館という旅館に泊まり、一時はここで静養していたこともあります。

この旅館は大きな集会用の部屋があったと見えて、神戸の史誌にもたびたび出て来ますし、神戸YMCAの発会式に使われたという記事もあります。現在その場所は特定できませんが、明治時代には、このように多くの著名人が泊まり活躍した場所だったようです。

竹本 私は入学と同時にバレーボール部に入り、合宿や遠征に明け暮れていました。中学、高校、大学とスポーツ生活から得た財産は大きかったですね。チームという生きものの中での人間形成、多くの人脈は今も生きています。

私が卒業した法学部政治学科は当時一番小さな専攻学科で、学生の数も少なかったのですが、それだけにゼミを中心とする教師との触れ合いと、お互い同士の間柄には肌をすり合わせるものがありました。

ご高齢ですが今なお元氣な憲法学者の田畑忍先生からは平和と民主主義を、政治学の岡本清一先生からは社会主義、共産主義をこえて自由とブルジョアデモクラシーなどを学びました。同時にそれぞれの人格を通して教えられたのは「自由と自治」でした。開放の中の自由は自治の責任でもあったし、学風ともいわれた同志社の精神でもあったと考えられています。

学友のひとり日本社会党の土

井たか子氏ですが、私の結婚式でウェディングマーチを弾いてくれたのも懐かしい思い出です。

入学と同時に勃発した朝鮮戦争、日米講和条約など、日々社会も学園も揺れ動く波乱の時代でもありました。

同志社にあって最後に行きつたのが、同志社大学の生協にたずさわることでした。これが我が道を行く機縁になったと思えば、同志社はまさに私の人生を築く場でもあったわけですね。

土井 「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ランコトヲ」。これは同志社大学の校門を入った正面にある石碑に刻まれた新島先生の碑文です。

一九四九年、法学部受験のため門を入ったとたん、私はこの碑文に釘づけになり、心をうたれました。「私の同志社」がはじまったのは、このときです。戦後の日本がどうなるかという不安もありましたが、新しいことがはじまるという期待でいっぱいでもありました。

私が法学部を志願したのは、弁護士になりたいと思ったことと、同志社の栄光館で田畑忍先生の講演を聞いて感動したことが重なっていました。

当時の学生は、よく勉強し議論していました。私は論友(？)に恵まれ鍛えられたと思います。ラグビーの応援に声をからし、不屈の気構えを教えられたと思います。結局 私は弁護士を断念し、研

究者から政界に入ってしまったが、いま同志社人が政界に数少ないことは、何としても寂しい限りです。

先日、北海道に出かけたとき、「文明開化の夜あけ」へ船出された新島先生出港の函館港をたずね同志社精神が今くらい大事なときはないと自分に言い聞かせました。「立憲政体を維持するは知識あり、品行あり、自ら立ち、自ら治むるの人民足らざれば能はず」。これは同志社大学設立の旨意の一節です。

石田 同志社と新島襄、同志社と神戸、また同志社時代の思い出などをお伺いしましたが、同窓生の現状について少しご紹介します。

現在、卒業生は約二十四万人、その内女性性は約四万人です。校友会支部は、国内で四十、海外で九カ所あります。海外は、アジアでは韓国、台湾、アメリカではニューヨーク、ロス・アンジェルス、シカゴ、あとイギリス、フランス、オーストラリア、それにニュージーランド。ちなみにニューヨークは三百人、ロスとシカゴは各々二百人です。

卒業生は全国に散らばっていますが、近畿は約四割、十万人弱というところですね。

国際的に活躍している人が多く海外支部での会合には、人もよく集まっています。現地にいる関学や青山学院大学のOB連中とゴルフの対向試合もやっています。

この度の神戸講演会では、作家

の黒岩重吾さんが「耶馬台国と卑弥呼の謎」、また同志社大学文学部教授の井上勝也さんが「人間・キリスト者・教育者 新島襄」のテーマで話されますが、いずれも同志社OBです。

いずれにせよ二十四万同志社人には、新島襄の精神が脈打っていると思います。

竹本 土井さんがおっしゃった正門の石碑の力強い墨筆にこめられた新島の想いは、この良心を手腕に運用する人材の輩出を願ったものですね。共生の時代に向かう人類にとって大切にしたい価値観だと思います。

今井 新島先生の後を継いで同志社の総長を引き受けた一人に、神戸教会の牧師であった原田助先生がおられます。神戸教会は日本で最も古い教会の一つで、原田先生をはじめ、同志社の中心的リーダーシップを取った多くの人々が関係しているだけでなく、同志社からも多くの先生を迎えました。その意味では神戸は同志社形成のために大きく貢献し、またゆかりの深い場所といえるでしょう。

●新島襄生誕一五〇年記念神戸講演会
日時／平成元年12月6日(午後2時)
会場／神戸国際会議場メインホール
プログラム

黒岩重吾(作家)

「耶馬台国と卑弥呼の謎」

井上勝也(同志社大学文学部教授)

「人間・キリスト者・教育者 新島襄」

会費／無料(どなたでも参加できます)

主催／学校法人同志社



●「世界経済は心筋梗塞」出版記念パーティ開く

●植草貞夫“生涯青春の会”で再出発を祝う

●宮田雅之画伯の“きり絵”展三宮そごうで

9月10日午後5時より、三宮そごう百貨店新館特別展示場で、きり絵作家として人気の高い宮田雅之画伯のオープニングパーティが開催され約100名が集った。画集『鶴集』の出版記念もかね、繊細で優美な画風に讃辞が。

アーバンリゾートフェア'93

21世紀に向けて

全市を舞台に

260の多彩なイベント決定



二十一世紀に向けたアーバンリゾート都市づくりの第一歩として開催されるアーバンリゾートフェア神戸'93。開幕まで残すところ半年足らずとなり、このほどフェアの概要がまとまりました。

来年四月から九月の会期中に行われる催しは約260。月ごとにテーマを決め、市内全域を舞台に繰り広げられます。

4月 ようこそ神戸へ

四月一日午前零時からグラランド・オープニングが行なわれ、街角では手づくりのパナー（装飾旗）があなたを迎えます。

ルーヴル美術館展 ルーヴル美術館の貴重なコレクション約百点が神戸に。本国以外での公開はこれが今世紀最後です。

国際オーキッドフェア神戸大賞'93（神戸蘭展'93） 日本のラン・世界のハシラン三万株を一堂に。

フルーツ・フラワーフェスティバル IN KOBE フルーツ・フラワーパーク（北区）のオープニングフェスティバル。

神戸・世界こどもフォーラム

日本初のユニセフウィーク、五万人のドレミの歌ほか。

5月 手づくり神戸

神戸まつりなど、市民の手づくりによるイベントを展開。

須磨演劇祭 蛸川幸雄氏の演出による幻想的な世界が出現。

神戸映画大賞'93 若い映画作家の作品を募った「神戸国際インディペンデント映画祭」と、市民投票でベスト作品を選ぶ「神戸市民映画フェスティバル」

6月 神戸でめぐりあい

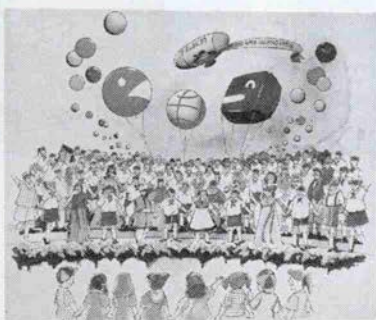
神戸のまちで、世界的な文化・芸術と出会ってください。

コーラスの一週間 リガ市から招くアベソル合唱団の公演や、コー

ラスフェスティバルなど。
ウィーン美術史美術館名品展 世界四大美術館の一つである同館から、選り抜かれた名品を。

7月 楽しんで神戸

様々な催しを通して、神戸での都市生活の楽しみ方を提案。
シャノンウィーク 「'93 KOBE パリ祭」を中心に、シャンソンの神戸のまちを包みます。



神戸・世界こどもフォーラム

アーバンリゾート国際会議・神戸
「活力と快適の調和」をテーマに内外の専門家が討議。

真夏の夜の夢 海をテーマにした光と音の一大ページェント。

インターナショナル・カレッジ・ダンスフェスティバル 日本の高校・大学に加え、海外の招待大学ダンスグループが熱演。

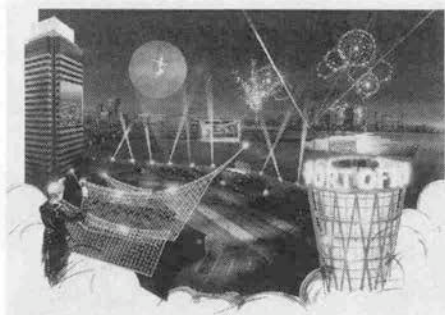
8月 味わって神戸

夏の神戸ならではの魅力をたっぷり味わってください。

第三回神戸国際フルートコンクール “フルートのまち神戸”で開かれる世界的コンクール。

流星を見る夕べ ペルセウス座の大流星群の観望会をはじめ、星空をながめる一週間。

パンパシフィック水泳選手権大会 環太平洋地域のトップスイマーた



真夏の夜の夢

神戸国際アーバン・ジャズ・フェスティバル



ち約300人が競います。

全国公募「有馬の春秋」風景画展 日本最古の名湯・有馬の豊かな自然や歴史を描く公募展。

9月 神戸でみつけた

フェアを通じて、新しい自分自身を再発見されることを願いつつ、フィナーレを迎えます。

地球環境フェア・イン・神戸 地球にやさしい生活を提案する展示やガレージセールなど。

神戸国際アーバン・ジャズ・フェスティバル ニューオーリンズから一流のブレイヤーが集まり、神戸のまちがジャズ一色に。

「印象 神戸」絵画展 神戸の四季やイメージを表現する絵画を公募するコンクール。

会期中 ずっと多彩な催し

四月から九月にかけて、長期間にわたって行われる催しも多数。

また、各区では区民の会主催のイ

ベントなど（エリアスペシャル）が行われます。

アーキテクチュア・フェア KOB E 「神戸建築探訪―アーキラリー」やテーマ展示などの建築展覧会。

神戸文化ホール開館二十周年記念行事 オペラ「椿姫」やサンクトペテルブルクフィル公演、ポリシヨイバレエ団公演など。

ウオーターフロントフェスティバル 「KOBESHIPバレード」「メリケン・ミュージック・フェスティバル」ほか。

まちかどステージ 毎週末、市内各地の広場などでコンサートや大道芸、紙芝居などを展開。



◆問い合わせ

神戸アーバンリゾートフェア

事務局 ☎078(322)

5024



無事工事も終わり神様もほっとした?!

10月22日、一年の拡幅工事を終えて、県道宝塚唐櫃線が開通した。
工事現場は有馬温泉駅より西へ10m、湯けむり公園横の坂の入口から150mの間。以前は車二台すれ違うのが勢一杯だったのが、幕を開けるとすっかり見違える、赤いレンガ敷きの歩道、見通しの良い車道に生まれ変わった。

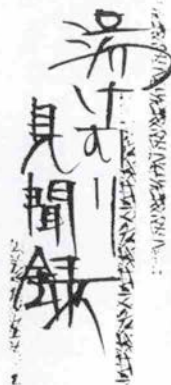
上方から山を切って道路を広げる



見通しの良い「ゆけむり坂」
道路沿いの店々の苦勞も報われたか。

特殊な工法のため、有馬にとっては近年にない公共の重大事となったようだ。工事中は有馬―三宮間のバスも有野台をう回するなど遠回りを強いられた、また現場の道路沿いの店へは行き来が困難になるなどの問題もあり、周辺の住民の協力なくしてはこの工事の完成はありえなかった。

未来に通じるか
ゆけむり坂
いよいよ開通



自然の恵みを
湯けむりに伝える

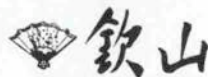
政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731

欽山は典雅な
日本風の館です

国際観光旅館



TEL (078) 904-0701代

雅ただようくつろぎの館

中の坊瑞苑

TEL (078) 904-0781

会議セミナーから御家族づれまで
有馬グランドホテル

TEL (078) 904-0181

静寂さにつつまれた
くつろぎの宿

国際観光旅館

陵楓閣

TEL (078) 904-0675
TELEX 5627-115

ろう。

開通式は盛大に行なわれた。

百人を超える参列者が見守る中、まず神事が取り行われ、お世話になった方々への感謝状贈呈、そして今度開通した新道の命名発表が続いた。152通の応募の中から選ばれた新しい名称「ゆけむり坂」は、古泉閣にお勤めの山根恭一さん他の作。平仮名で馴染み易く、なんと情緒深い名前なことか。

「次は「太古橋」の拡幅工事ですね」と言うのは「栄町を考える会」



道路沿いにはこんな遺跡が、400年前のものと云われる、岩に彫られた「晩櫻」の文字。龜乃尾不動尊のすぐ横にある。

会長の奥谷潔さん。「良い街づくりの中に良い心創りがあると思っています。移りゆく人々の感性、そして将来のビジョンを踏まえた街づくりをしていかななくてはなりません」たんとんと語る中に、昔のままの有馬を守りたいという気持ちも見え隠れした。難しい問題だと思う。

阪神高速北神戸線が有馬まで延びる日もそう遠くない。いよいよ都心に近くなる有馬。それに対応して有馬町全体の道路整備も当然必要となってくる。「ゆけむり坂」はその第一弾なのだ。

秋空にすっきりのびた「ゆけむり坂」。開通後まもなく落とされたタバコの吹いがらは悲しかったけれど。

●全国公募

“有馬の春秋”風景画展

アーバンリゾートフェア'93への参加行事として有馬の魅力を再発見することをねらいとした絵画展です。

出品作品 10号以上100号以内の絵画

資格 年齢・国籍問わず

審査料 一点5000円

(二点目3000円)

応募期間 平成5年7月10日(土)迄

その他詳しくは、有馬温泉観光協会

会“有馬の春秋”風景画展実行委員会

会 ☎078(904)3450まで。

スライナー

六甲有馬ロースウェー

日本最長、延々、

五キロの空中旅情。

TEL078(891)0031



伝統の湯と
おもてなし

兵衛

向陽閣

慶事・法要、お日帰りも承ります。

TEL(078)904-0501代
FAX(078)904-3838

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり
味に集う



TEL(078)903-1024

木造りの街

御所坊

TEL(078)904-0551

敷地内から湧き出る
日本最古の温泉“有馬温泉”

阪急ホテルチェーン

有馬ビューホテル

TEL(078)904-2295代

温泉と演芸と遊技場

有馬ヘルスセンター

TEL(078)904-2291

神戸を
福祉の街に

<227>

街角で見かけた、行方不明
の子供を探す貼り紙

橋本 明

〈社団法人家庭支援
促進協会事務局長〉

K O B E

F U K U S H I

危機に立つアメリカの子どもたち

今回久しぶりにアメリカを訪ねて感じたことの一つは、子どもが予想以上に危機的な状況に置かれているということだった。

ホームステイをしていた家の周辺を散歩していると、電柱などに行方不明の子どもの写真と特徴などを書いたビラが貼られていたり、新聞の折込み広告といっしょに行方不明の子どもの写真を掲載したダイレクトメールが入っていた。電話帳には行方のわからない子どもをさがすための相談センターが二カ所載っていた。全米で百万人もの子どもが行方不明になっているとも聞いて驚いてしまった。もっと深刻なのは子どもの虐待の多さであった。シアトル市だけで虐待に関する相談のホットラインが8カ所もあり、全米では一年間に子どもへの虐待についての通報が何と二五〇万件もある、と報告されている。そして子どもたちの80%以上は自分の親か顔見知りの人たちによって虐待

されているという。18才になるまでに女の子の三人に一人、男の子は七人に一人が性的虐待を受けているという報告もある。しかし、暴力を振るわれるのは子どもだけではない。成人女性も全米で15秒毎に夫かボーイフレンドに虐待され、六分毎に一人が強姦され、50才以下の女性の10人に1人は強姦された経験をもっている、との統計がある。アメリカはまさに暴力を是認する文化をもった社会であるとも言えそうだ。その暴力文化の背景には飲酒や麻薬があり、子どもの虐待の80%ほどは親のアルコール問題が関係しているとも指摘されている。

アメリカの家族の崩壊は日本よりかなりひどく、この五、六年で親と一緒に暮らせない子どもたちの数は急激に増えており、里子として里親の家庭で暮らす子どもたちの数は40万人ほどにもなっている。日本全国の養護児童の数は三万五千人

程だから、日米の人口比（約一対二）でくらべるとアメリカには日本の少なくとも六倍以上の子どもたちが自分の親と離れて生活せざるを得ない状況におかれており、それだけアメリカの家庭崩壊は深刻なのである。里子の七割は親による虐待や放任、麻薬によって家庭から引き離されている。アメリカには日本のような乳児院や養護施設はないので、子どもは親や親戚が育てられなくなると里子として里親の家庭で暮らすことになる。

しかし里子の増加に里親の数が追いつかなくてソーシャルワーカーたちは里親さがしにずい分苦勞を重ねていた。しかも子どもたちが知的、身体的に障害をもっていたり、問題行動があったり、年長児や少数民族、きょうだいであつたりすると



里親歴38年のバーバラ・リチャードさん（右）
と27年のバーバラ・ドレーメンさん（左）

なかなか里親が見つからず、また無理矢理何とか里親に預けてもうまくいかず、子どもが何人もの里親をたらい回しにされるということも珍しくない。

シアトル市近郊のケント市で私は



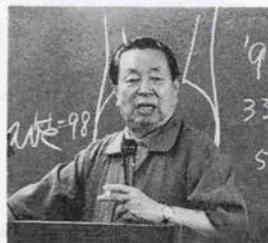
バーバラさんたちは麻薬常用者の母親に新生児の育て方を泊り込みで教えている（ケント市）

ユニークな活動をしている二人の里親に出会った。里親歴38年のバーバラ・リチャードさん（53）は今までに四百人以上の里子を、バーバラ・ドレーメンさん（48）は里親歴27年で今までに三百人以上の里子をそれぞれ預かった経験がある。二人は最近、麻薬乱用によって自分が産んだ子どもを育てられない親が増えていることに注目し、病院から退院した乳児15人を一時的に預かる、いわゆる「託児所」を二年前に開設し、そこで麻薬常用の親に子育ての仕方を教え、親が育てられない乳児にはできるだけ早く里親をさがすという試みを始めていた。ドレーメンさんから「今まで二人の日本人の里子を預かったことがありますよ。一人は日本人の母親のもとへ帰り、もう一人は別の里親に再び預けられました。そのあとはどうなったかわかりません」という話を聞き、私もいささかびっくりした。

二人のバーバラさんは看護婦の知識と経験を生かして今も麻薬常用の親から産まれた子どもを自宅に引きとって育てている。

K.F.S. NEWS 163

ファッション公開講座



10月22日(木)午後6時30分より中小企業センターで立亀長三氏によるファッション公開講座が開かれた。今回のテーマは「歴史は未来を作る PARI III」。スペイン、イタリア、イギリス、ドイツ、フランスと視察。スライドをまじえて「流行」について語った。

「不況だと言われているが、ヨーロッパ行きの飛行機は行きも帰りも満員でした。消費者自身はそれほどお金がないのではなく、必要でないものは買わないだけなのです。服が売れないのは販売員が悪いのです。お客さんがどういう環境で、どういう服を着る人かよくわかった人が仕入れをすれば、残らないのですよ。

ロンドンではシフトドレスが流行っていました。ベルトからボタンを2つだけとめてあとははなすのです。ワン

ピースもボタンを途中までとめてはなしています。……9月はチョッキが流行りましたがこの冬も、ニットのセーターやカーディガンの上にニットのチョッキやデニムのチョッキを重ねていました。……ニットはダボっと着るタイプが売れるでしょう。下にタイツか細いズボンをはいてね。セーターの裾にリブがついていないのがいいです。そして、柄は中近東アジアの楔形模様です。丸や四角や三角ですね。

最後はセビリア万博へ行ってきました。長蛇の列で人気だったのが日本館。織田信長の安土城が復元されていて、釘一本使わない建築、漆塗りの赤が見事な柱などを世界各国の人々が見て驚嘆していました。日本のものが再確認。外国の真似はやめて日本独自のものを作っていこうという気になりました。

上 熱のこもったスピーチ。立亀長三氏と真剣に聞き入る聴衆

●11月マンスリーサロンご案内

テーマ スポーツという文化

講師 山田 誠氏
(神戸外国語大学教授)

日時 11月20日(金) 午後6時30分

場所 神戸市立中小企業会館
神戸市中央区三宮町1-9-1
三宮センタービル16階
TEL (078)391-5963

一般会費 1,000円

●'92 KFS クリスマスパーティ予告

とき 12月19日(土) 午後6時開場

ところ 神戸東急イン

かいひ 会員 5,000円

ゲスト 10,000円

*追加チケットのご希望は

高橋さん TEL(078)221-1872迄



KOBE の本棚

中に各国の姿が仄めくのも
おもしろい。

(ブレーンセンター・
一八〇〇円)



福永 勝也

『外交官の見た ニッポン』

またかと思われるかもしれない。確かに「日本論」が溢れ返っている感がある。しかし、自分の姿は自分の目で見えないように、「日本人」が「日本」のことを考えるのにも限界がある。こういった場合、鏡を用いると良い。何らかの対象に自己を映し出せばいい。この書も副題に「われわれは彼らの目にどう映っているのか」とあるように、17カ国20人の外交官という鏡に映し出された現在の日本、関西の将来、顔が見えないといわれる日本人等の姿が言及されている。また鏡の



露の五郎

『なになにわ 歳時記』

歳時記

「知ってても、知らんでも、別に、どうと言うことは無いんですけど、知ってても邪魔にはならん、そんなような事が、コテコテと書いてある本でおます。」と著者は語るが、しかし常識や教養として諒解され、落語のネタとなり笑いをうむような事々が今では忘れ去られている。時代の流れと言ってしまうのも寂しい。この書は一風変わった辞書として読むとおもしろ

い。関西の季節ごとの行事、十日戎に厄払い、大文字や事始め等のしきたりが、落語国の軽妙な語り口のにせられて頭にすらすらと入っていく。朗読されることをお勧めする。

(東方出版・一六〇〇円)



空間構成研究所

『迷図 MAZE』

散歩をする。ゆったりと時間をかけ、日頃目のいかないものへ注意を向ける。そして、道に迷う。しかしあせらず迷ったことを楽しむ。散歩にガイドブックはいらないけれど、出掛ける前に参考にすると良い雑誌が出た。

「都市と建物と人間の関係を考える」ことを基本に、神戸を中心として、現代都市論や川本三郎、伊藤比呂美、田村隆一氏等のエッセーの他に神戸の建築物の多様性を沢山の写真によって目に楽しませてくれる。普段見慣れた神戸の風景が、一枚の写真に切り取られ、日常とのズレを起こ

す、そんなおもしろさがある。

(京阪神エルマガジン社・
一八〇〇円)

黄建勳

『旬菜果』

食べ物、食べてうまければいい。とは言っても、どういった素材が使われそれが旬のものがどうかぐらいいは知っておきたい。そんなときには最適の、旬の野菜や果物ばかりを集めた写真集が出版された。黄建勳氏の写真は雑誌「ベジタ」や「NHKきょうの料理」で読者の方にはおなじみかもしれない。

食べ物は舌で味わうだけでなく、目、いわゆる視覚による要素が大きい。ここに収録された65点の写真の



どれもが、直接胃に働きかけてくる力を持つ。見るからに旨そうだ。巻末に載せられた作品解説も、これはひとつのエッセーとなっている。

(誠文堂新光社・
九〇〇〇円)

KOBE MODERN CULTURE

美術



★嘉納千紗子オブジェとガラスアクセサリー展

11/5(木)~17(火)
ジニアスギャラリー1階(大丸神戸店浜側)



オブジェ「月」

真鍮とガラス、木などの素材を組み合わせた壁掛けオブジェ、画家としての絵画性を生かした絵とガラスの照明オブジェを発表。

宇宙でガラスの実験をした飛行士の毛利さんにプレゼントされる、オレンジ色の特殊ガラスを使用した作品は、大阪眼鏡ガラスからの依頼を受けたもの。その他にも宇宙をテーマにした作品が数点ある。ラジオ関西出演時、村上和子さんから贈られた古代ガラスを使ったアクセサリーをはじめユニークなアートを100点上出展している。

★空間と彫刻松谷武判展

10/22(木)~12/23(祝)
芦屋市立美術館ホール
一般3000円 中高生2000円

近年の松谷の「流動」と題された仕事は、鉛筆でキヤンパスあるいは和紙の全面をドローイング。黒鉛が流れ広がる末路は、それまでの気の遠くなるような鉛筆の繰り返しストロークの緊張感とは裏腹に静かに消えて行く。



「流動一芦屋」

美術博物館ホール中央の天井より13mの長さ、巾約2mのドローイングが展示され、その量感に圧倒される。

★ジョン&ヨーコ&ビートルズ展

10/24(土)~12/27(日)
アートポケット・北野ミュージアム(水曜休館)
大人5000円 中高生3000円

「自分の描いたものを読みながらあいたい」という強い意志をもちながら果たしえず世を去ったジョン

・レノン。音楽の分野での彼の足跡はあまりに有名だが、意外にアート分野での彼の芸術は知られていない。彼の意志を継いだオノ・ヨーコ夫人によって版画化された数々の作品、発刊禁止になったオリジナルリトグラフをはじめ、個人収集家から提供された貴重な資料を展示。限定ポスターやTシャツ、レノンデザインの小物の販売も行なっている。

★丹阿弥丹波子展

11/24(火)~12/5(土)
アトスベイスモープ(東区岡本)
本費078(412)9781月曜休館

朝日新聞連載中「万華鏡」(遠藤周作氏随筆)挿絵の原画、銅版画、新作メゾチントを展示。

「私は丹阿弥さんの作品が好きだ。好きだから自作の装幀をお願いしたり、エ



ッセイの挿絵を描いたりして頂いた。

仕事部屋の食堂に彼女から頂いた一枚の作品がおいてある。それは傷ついた硝子のコップとその破片を描いたものである。眼をこらしていると、そのコップのふちに、コップの線に、コップの光に、命が光っている。命がこんな微細な、かすかな物の上に、まるで寄りしるに寄る神の命のように息づいているのはつきりとわかる。その微妙な命を丹波弥さんの作品はつかまえている。」(「偶感」遠藤周作より抜粋)



演劇

★ミュージカル大航海

12/4(金)18時30分
神戸文化ホール
S席5000円 A席4000円

15~16世紀の「大貿易時代」を背景に、島小さく貧しき故祖国を捨てた若者5人が、中国・東南アジアを旅しそこで得た芸能や工芸

淀川長治
映画評論家



『キス・before・コンティニョー』

PRELUDE TO KISS

面白いことにアメリカ映画がしきりに昔をふり返りだした。一九九二年の「キスへのプレリュード」もそのひとつだった。

一目惚れみたいに二人は気が合ってすぐ結婚した。結婚式は立派だった。そのまま野外パーティーとなった。花婿、花嫁をかこんで祝盃がかきながら一人の老人が迷いこんできて花嫁にキスをせがんだ。花婿は心良く許してやった。そして新婚夫婦はハネムーンに出た。ところが彼女が老人とキスしてから何だか彼女の様子が変ってきた。そのためハネムーンはこの夫婦に早くも溝を作ってしまった。

×

これはもとは舞台劇(クレイグ・ルーカスの脚本)で映画もこの劇作家が映画脚色している。そして監督はあのホモの映画「ロングタイム・コンパニオン」のノーマン・ルネ。これは彼の第二作目の映画である。

ところでこの映画(この舞台劇)は何だろうといふかしげに首をひねる人が日本では多からう。ところがこれがブロードウェイでヒットしたのはアメリカではみんながハタとひざを叩いてニガ笑いしたからである。

アメリカ人といわず現代はますます離婚がふえてきた。この映画(この舞台劇)はそれをいませめたコメディなのである。夫婦になったとたんに夫の方が妻君に興ざめたり、反対に妻君の方が新婚の夫に「こんな人とは知らなかった」ということで離婚へと急ぐ。そのうえ子



気が合った二人はスピード結婚するが…

供がすでに出来ていたりするとさらに話がややこしくなる。誰でもそうだがアメリカ人は嫌いとなると一日も我慢できぬたちである。そのため離婚が実に多い。映画に

も「ディヴォース・チルドレン」といったのもあって学校で子供たちが自分のパパやママのことを「あたいのパパは今のパパとちがうのよ」などというパラマウントのトーキー初期の映画もあった。あのセシル・B・デミル監督の「連理の枝」For Better for Worse という映画もあの教会で牧師が「良き時も苦しき時も…」とさすあの結婚の誓いの言葉が題名となった夫婦ものの映画が一九一九年にあったように離婚へのいましめ映画はサイレント時代からたくさん作られている。



人は一度愛を誓った相手をどこまで愛し抜くことができるか

そのようにこの一九九二年作の二十世紀フォックス映画も今さらあらためて、そのような映画を製作したのであった。製作は二人であるがそのひとりのマイケル・グラスコスは「ひとりぼっちの青春」「ラスト・ムービー」などを製作しており、またアノー監督の「人類創世」もこの製作者だった。

×

結婚は我慢。こんな言葉さえある。いくら愛し合ったからと言って五年六年もたつと互いのあらが目につきだして「こんなのと一緒になるんじゃないかった」というと

きがくる。

けれども、いったい誰が相手を選んだか、思えば自分じゃないか。今さら嫌やとは自分自身を馬鹿にしていることじゃないかと、そういうように離婚を注意する。

×

この映画の花婿にはアレック・ボールドウィン(「ワーキング・ガール」)「アリス」「あなたに恋のリフレイン」(出演)そして花嫁にはメグ・ライアン(「トップガン」)「恋人たちの予感」「プレシディオの男たち」(出演)。けれど一番むつかしい役が花嫁とキスして自分自身を花嫁に乗り移してしまうという不思議な老人。これを舞台でもこの同じ役を演じたシドニー・ウオーカーが演じている。彼は舞台ではローレンス・オリヴィエの「ハムレット」その他「ベニスの商人」や「十二夜」に出ている舞台の名優。だから一番むつかしい不思議な老人の役を演じているのである。アメリカ人はずっと神を信じていることからこのような老人(つまり神の使い)を出してきても感心こそすれ馬鹿らしいとは思わない。古くは「我が道を行く」のビング・クロスビー扮したオマリイ神父もそうであり、そのような不思議な人がときに出てる映画がよくあったものだ。

映画の出来は監督が(脚本もそうクレイグだった)「ロングタイム・コンパニオン」監督で、これが第二作目の監督というだけにまだおとなしすぎた。これがレオ・マツケリイやフランク・キャブラならもっと名作になったかもしれない。

出演者は花嫁の父にネッド・ビーティ(「脱出」)、ママにパティ・デューク(「奇蹟の人」で少女時代のヘレン・ケラーを演じた二度目の映画化ではサリヴァン先生の役を演じた)そのほかキャシー・ペイツ(「ミザリー」というぜいたくな顔触れの共演に音楽が「マチルダ」や「アゲイン」などが聞けるほかこの映画のテーマ・ミュージックがデューク・エリントンの作詞・作曲というのもお楽しみの一とつといえよう。